

NEW!!

## The Bay Radial Speaker System Courante

ラジアルスピーカーシステム

クーラント

¥5,800,000/pair(税別)

### TECHNICAL SPECIFICATIONS

Frequency response: 28Hz - 22kHz

Sensitivity: 90 dB/2.83V/m

Impedance: 4Ω

Minimum Recommended Amplifier: 50W



Bayz audio

- ・超軽量ツイーターメンブレン/BRS(特許技術)
- ・ウーファーはエジプト製パピルスコーン(特許技術)
- ・定在波を発生させない超高剛性超軽量キャビネット
- ・キャビネットダンピングコンパウンド(特許技術)
- ・キャパシターとエアコアコイルを使った低エネルギーストレージクロスオーバー(特許技術)
- ・ハンガリー製100%カーボンキャビネット
- ・ハンドメイドインデンマーク

### ■チーフエンジニア/Zoltan Bay(ゾルタン・ベイ)

Bayz Audio(ベイズオーディオ)の設立者、Zoltan Bay(ゾルタン・ベイ)は30年以上の間、ハイエンドオーディオのために専念してきました。Zoltanは完璧を追求するエンジニアであり、音楽愛好家でピアノも演奏するクリエイターです。これまで数多くの革新的技術、特許技術を含む特殊な技術的ソリューションの開発に携わり、スライディングバイアス回路の特許取得をはじめとして、35年以上ハイエンドのプリアンプ、パワーアンプ、ケーブル、そしてスピーカーの設計製造に携わってきました。そして長年の経験と最先端技術革新に基いた妥協のないハイエンドオーディオ機器、Bayz Radial Speakersを作るという目的でBayz Audioを創立したのです。



### ■テクノロジー

従来のスピーカーが音圧、出力、周波数特性などについての人間の感覚できる限界に到達してかなりの時間が経っています。生演奏に近いステレオサウンド再生という最終的目標を達成するため、ハイエンドスピーカーの開発者たちは、ますます360°の音を再生するスピーカーに注目するようになってきており、ラジアル(放射的)に、つまり全方向の音場を適切に作り出す機器のため数多くの技術ソリューションが提案されています。しかしながら、これまでに考案されたソリューションは大幅な妥協という犠牲を払ってラジアルに音を発生させています。ラジアルに音を発生する空間的放射能力は従来のポイントスピーカーによる空間体験をはるかに超越します。また現在のハイエンドスピーカーで適切なステレオサウンドを実現するためには例えば壁から0.5-1.0m離す必要があるなど、スピーカーを部屋のどこに配置するかが非常に重大な問題であることは良く知られています。ダイポールスピーカーの場合、ステレオ体験のためにはスピーカーとリスナーの位置を精密に決める必要があります。

### ■BRS(Bayz Radial Speaker)

Bayz Audio(ベイズオーディオ)の創立者Zoltan Bay(ゾルタン・ベイ)はラジアルの音について何十年もの研究開発を行った結果、2011年、ユニークなラジアルサウンドプロジェクトコンセプトのBayz Radial Speaker (BRS)を作り上げました。BRSは放射方向にパルスすることで音を作り出す独自の超軽量素材で作られた円筒形メンブレンで、これまで世界各国で特許を取得しています。このスピーカーはラジアルに音を放射する能力だけでなく、音質も非常に素晴らしいものです。BRSの驚異的な音質、およびエレクトロニックパラメーターはこれまで実現できなかったレベルの音質を可能にするだけでなく、ハイエンドオーディオのサウンド再生の水準を新たなレベルへと引き上げました。素晴らしいインパルス応答の結果、ホログラフィックな音というコンセプトに新たな意味がもたらされました。楽器の配置や大きさが実際そこにあるかのように再生されるからです。メンブレンはドームツイーターの何十倍(30-50倍)もの総面積があるので、周辺に発散される音のエネルギーは1方向に集中されず、そのため耳に心地よい体験を提供する音場を作ります。BRSでは環境の音響特性による音質への影響が相当軽減されました。つまり、条件の悪い場所でもリスナーは素晴らしい音質を楽しめるようになります。

### ■Courante(クーラント)

超高性能ドライバーBRSを搭載した2ウェイ3スピーカーのCouranteには、それに最適なエンクロージャーとウーファーを設計する必要性がありました。F1モノコック、Red Bull Air Race World Championshipsのレース飛行機等に使用される最新鋭のカーボンファイバーを数十年研究開発してきたAndras Voloscsuk(アンドレス・ボルシュク)と彼のエンジニアリングチームは、コンピューター解析による音響モジュールを製作し、これに対して厳しい測定とテストで試行錯誤を重ねた結果、ポリマール・マトリックス・コンポジット(PMC)を使用した空気力学に優れ、完全な層流を実現した超剛性超低質量の特殊キャビネットの採用を決定。この特許出願中のキャビネットはユニークな内部減衰特性によって共鳴がなく、表面からの音の放射が全くありません。そして、低質量によってエネルギーを保存しないため、他の一般的な高質量スピーカーキャビネットと比較して圧倒的に小さいディストーションを実現しています。

超ハイスピードを誇るBRSに適合させるためのハイスピードウーファーは、SB Acoustics・Scan Speak・Vifa・Dannish Sound Technologies・Tympanyなどのハイエンドトランスデューサーを設計してきた、Daneisan AudioのCEO、Frank Nielsen(フランク・ニールセン)によって開発されました。エジプト製パピルスコーンを使用したCourante専用設計された2基のウーファーはBRSと約2kHzで緩やかにクロスされ、超低域まで余すことなく再生。また、2基のウーファーは超剛性超軽量のキャビネットに上下にそれぞれ逆方向に取り付けられ、ニュートンの運動の第3法則「作用反作用の法則」により、スピーカー全体の振動や共鳴を除去し、ピュアリティは今までないレベルに達成しています。

Couranteは革新的なコンセプトから生まれた、Bayz Audioでしか実現されていない、史上最高のスピーカーマシーンなのです。